

2013年2月18日

株式会社陽進堂

国立大学法人大阪大学

## 株式会社陽進堂と国立大学法人大阪大学による 共同研究講座の設置に関して

株式会社陽進堂（社長：下村健三、本社：富山県富山市、以下、㈱陽進堂）と国立大学法人大阪大学（総長：平野俊夫、本部：大阪府吹田市、以下、大阪大学）は、疾病の原因遺伝子を標的にした新薬の開発を主業務とするバイオベンチャーの設立を目指して、「核酸制御（陽進堂）共同研究講座」を設置することに合意し、研究活動を開始しましたのでお知らせします。

### 1. 共同研究講座設置に至った経緯

㈱陽進堂は原薬から最終製品までの一貫した研究開発・製造・販売体制を確立することにより、高品質なジェネリック医薬品を提供してきました。今般、味の素製薬株式会社と合弁会社を設立し輸液・透析領域における治療へのさらなる貢献を目指すなど事業領域を拡大することで“人々の健康と社会に貢献する製薬企業”に向けた取り組みを強化しています。

大阪大学は国立大学法人としての責務である研究・教育活動への貢献に加えて、最近では民間企業との共同研究・受託研究を積極的に推進し、新しい知見に基づき新しい学問分野・技術・産業を生み出す共同研究モデルの構築に取り組み、2006年に「Industry on Campus」を実現する独自の共同研究講座制度を発足させています。

㈱陽進堂ではこれまで独自にバイオ医薬品の研究開発を行ってきました。このような中、㈱陽進堂で蓄積された基礎実験データを軸に遺伝子発現プロファイリングを専門とする大阪大学大学院工学研究科教授渡邊肇博士との共同研究を双方が協働してキャンパス内で実施することにより、安全・安心で確実に効果を発揮する新薬の開発研究が可能であるとの結論に達し、共同研究講座の設置に至りました。

### 2. 共同研究講座設置の目的

今後は、㈱陽進堂のジェネリック医薬品事業領域にバイオ医薬品開発事業を加えることにより、事業の広域化を行い“人々の健康と社会に貢献する製薬企業”に向けた更なる取り組みを行っていきます。また、大阪大学は産業創出拠点を大学内に構築して研究することにより、より良い成果をスピーディーに挙げて社会の発展に貢献するイノベーションの創出を目指していきます。今回の共同研究講座の設立を契機として、より広範なシナジーを追求する事により、基礎研究成果の社会還元を目指しジェネリック医薬品業界のより一層の発展に貢献したいと考えています。

### 3. 共同研究講座の基本戦略

下記、基本戦略に基づき研究を行うことにより、疾病の原因遺伝子を標的にした新薬の開発を主業務とするバイオベンチャーの設立を目指していきます。

- (1) 核酸を標的にした研究関連試薬およびバイオ医薬品の開発研究
- (2) PCT 出願済み技術の疾患モデル動物への応用研究
- (3) 遺伝子発現プロファイリング解析を基盤とした疾病原因遺伝子の探索研究
- (4) 安全・安心で確実に効果を発揮する新薬の開発研究

以上により、基礎研究成果の社会還元積極的に取り組みます。

#### 4. 共同研究講座の概要

名称：核酸制御（陽進堂）共同研究講座

研究場所：大阪大学大学院工学研究科 生命先端工学専攻内

期間：平成25年2月～平成30年1月（5年間）

研究体制：大阪大学大学院工学研究科教授渡邊肇博士(49)がメンター教授、(株)陽進堂顧問から和田忠士博士(49)が特任教授、(株)陽進堂研究員から真門剛毅博士（33）が招へい教員としてそれぞれの業務に従事します。

#### 参考資料

##### ■(株)陽進堂の概況

代表者：代表取締役社長 下村 健三

所在地：富山県富山市婦中町菰島 3697-8

設立：1962年（創業：1929年）

売上高：153億円（2011年度）

従業員数：約500名

事業内容：医薬品原料及び医療用医薬品の研究開発・製造・販売

#### 本件に関する問い合わせ

《株式会社陽進堂》

経営企画部 中島 修（なかしま おさむ）

TEL：076-465-7777

FAX：076-465-7780

e-mail：nakashima@yoshindo.co.jp

《国立大学法人大阪大学》

○ 共同研究講座制度について

工学研究科 社会連携室

TEL：06-6879-4218

○ 本講座の内容について

工学研究科 生命先端工学専攻

教授 渡邊 肇（わたなべ はじめ）

TEL：06-6879-7427

核酸制御（陽進堂）共同研究講座

特任教授（常勤） 和田忠士（わだ ただし）

TEL：090-3683-2133（携帯）